

新年を寿ぎ、謹んでお慶び申し上げます。

会員の皆様には、新しい年の多幸を願い、1年の計画やそばに関する新たな抱負等を胸に抱いておられることと推察申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルスは下火になりつつあるものの、猛暑により世界的な気候変動への待った無しの対応を迫られていること、ロシアのウクライナへの侵攻が止まない中でのイスラエルとハマスの戦争勃発、アメリカと中国との対立など世界が大きく揺れ動いていること、国内では円安による社会経済活動への深刻な影響が出ていること、自民党の政治資金パーティーを巡り政治への不信感が増大していることなど、山積する厳しい課題への対応を迫られてきた1年でありました。

そばの分野を見ますと、コロナによる重症化率が低下してきたことを受けて行動制限が緩和され、そば道段位認定会やそば祭りも開催できるような状況となりました。

このような中で、4月には、会の金砂交流館を舞台に「お花見そば会」を開催しましたが、予想よりはるかに早く桜が開花してしまい、イベント当日には見頃を過ぎ、花より蕎麦という状況になってしまいました。

9月には、金砂交流館を会場に「そばの花を愛でる会」を開催し、会場周辺の畑地に広がるそばの花を愛でながら常陸秋そばの魅力を堪能していただきました。

10月には、これまで出店していた信州そば祭りへの参加を取りやめ、代わりに「南会津新そば祭り」に初めて出店し、2日目は雨の影響を受けたものの当会の美味しい蕎麦を提供することができ、好評を博しました。

一方、昨年3年ぶりの再開となった蕎麦好きに人気の常陸秋そばフェスティバルは、会場地の体育館の建て替え工事の関係で、残念ながら中止となってしまいました。

こうした環境変化に対応し、蕎麦好きの方々の期待に応えるべく、会では、11月に里美のかかし祭の一環で開催されている「里美秋の味覚祭」に初出店し、多くの皆様に美味しい常陸秋そばを提供し、好評を博すことができました。

例年11月と12月に金砂交流館で開催してきた「秋の収穫祭」は、日程の都合で1日だけの開催となってしまいましたが、雨天にもかかわらず大勢のお客様が来場し、常陸秋そばの原原種を会員が栽培した抜群に美味しい新そばを堪能していただきました。

4年目となる会のそば栽培では、常陸秋そばの親となった金砂郷在来を生み出した赤土の畑を借りて、玄そば日本一と言われる最高級の玄そばの豊作を願い、2年目の栽培に取り組みました。しかしながら、今年の猛暑の影響はそばにも顕著に現れ、そばの花盛りで受粉に最も大切な時期にミツバチの活動が低調で、収穫量は平年を大きく下回る結果となってしまいました。

このような中ではありましたが、この玄そばを碾いて、「秋の収穫祭」ではプレミアム

もり蕎麦として提供し、絶賛されたところであります。 また、会員有志の提供による久慈川の天然鮎や菊の花等の珍しい天ぷらも大好評で、来場の皆様との交流も行われ、古代米、柚子の販売も収穫祭に華を添えました。

更に、11月につくば日航ホテルで開催された「常陸秋そばを楽しむ会」においては、昨年に引き続き手打ちそばの実演と提供を行い、常陸秋そばの魅力と会の存在感をアピールすることができました。

12月には、水戸市で開催されたG7内務・安全担当相会合のレセプションにおいて、県からの要請を受けて、常陸秋そばの手打ち実演（掛札久美子名人が担当）と提供を行い、各国要人に常陸秋そばと茨城県の魅力を大きくアピールする役割を果たしました。

また、定期的な「そば打ち技術の各種研修会」、高校生、一般へのそば打ちの指導に加え、会員相互の交流を深めるための楽しい「迷人戦」の2回目の開催、外部から講師を招いての「そば打ち合宿研修交流会」、「四段位・五段位認定会受験者向けの講習会」等により、会員のそば打ち技術の向上を図り、手打ちそばの普及にも努めました。 その結果、新たに5段位を含め各段位の認定者が増え、福井で開催された全日本素人そば打ち選手権大会では、会の事務局を担っている掛札久美子さんが見事優勝され、第28代の名人となるなど、大きな成果を見ております。

更に、当会がそば打ちを指導している太田西山高校では、8月に東京で開催された「全国高校生そば打ち選手権大会」に2年連続出場して9位入賞を果たし、来年度の優勝を目指した取り組みに熱が入るなど、盛り上がりを見せてきています。

このように、新たな事業を含め、多彩な事業を展開することができ、大きな成果を上げることができたように感じております。

コロナへの対応を含め、様々な工夫をして、各種事業等に献身的に対応していただいた関係の皆様へ、改めて深く感謝申し上げます。

今年は、ロシアのウクライナへの侵攻やイスラエルとハマスの戦争等の早期解決、コロナの収束、国内外の各種課題への適切な対応を願っておりますが、暫くは厳しい状況が続いてしまうのではないかと見ております。

こうした厳しい環境の中ではありますが、今年も、コロナへの対応を含め、細心の注意を払いつつ、成果が大きくなるよう各種事業に取り組んで参りたいと考えております。

会員の皆様には、当会の様々な活動に積極的に参加して、自らの活動の幅を広げ、一層楽しみを増やされますよう期待しております。

ここで、年度内の当会に関係する主な事業を紹介しますと、3月2日（土）、3日（日）には、当会の事務所に隣接する「かなさ笑楽校」を会場に、首都圏支部主催（当会が主管）による名人戦とチーム対抗戦があります。 そば打ち仲間が交流し合い、楽しい首

都圏支部を創ることにより、魅力ある全麵協としていくために企画した催しの3回目です。そば仲間や会員団体同士の交流が深まるよう、主管する協会としても参加し、支援しますので、名人戦とチーム対抗戦への選手としての参加や応援を含め、皆様のご協力をお願い致します。

また、3月8日（金）、9日（土）には、常陸太田市交流センターふじを会場に、「全麵協そば道三段位、初段位・二段位茨城認定会」を、10日（日）には赤土で栽培した常陸秋そばの原原種を使用した抜群に美味しい蕎麦を提供する23回目の「日本一の常陸秋そばを楽しむ会」を主催することで、準備を進めております。

会員の皆様の満足度を高めていくためには、当会の各種活動を更に充実させていくことが必要であり、それには会員の皆様が受け身の消極的対応で待つのではなく、会の活動に積極的に参画し、口も出し、汗もかくという関係を築いていくことが大切です。皆様の知恵と力を結集して、活動の成果をより大きくしていくために、ご意見、ご提案など、遠慮なく事務局までお寄せ下さいますようお願い申し上げます。

全麵協では、「そば道」という概念を提唱していますが、皆でそばを広く深く学び、実践していく過程が、そば道の三本の柱である「自分づくり」、「仲間づくり」、「地域づくり」の成果に結びつき、そば文化の発展や地域の振興に繋がっていきます。これがそば道を歩む私共の使命でもあることを肝に銘じ、会員の皆様とともに、今年もそば道を一步一步着実に歩んで行きたいと考えております。

皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。

令和6年1月1日

いばらき蕎麦の会会員各位

いばらき蕎麦の会

会長 人見 實 徳